

美祢社会復帰促進センター 「再誕の丘」だより

「再誕の丘」とは

平成16年12月15日に、南野知恵子法務大臣(当時)が、美祢テクノパークを視察されました。

その折、かつて立ち並んでいた炭坑住宅が、美祢社会復帰促進センターに生まれ変わることに因み、「この施設で受刑者が社会復帰するために生まれ変わる」ことを心から願ってこの丘を「再誕の丘」と命名されたものです。



目次：

美祢マーケットプロジェクト	1
着任の御挨拶	2, 3
美祢市大理石使用の製品販売について	4

美祢マーケットプロジェクト 受刑者製造パンの販売



令和3年3月、美祢社会復帰促進センターの売店に、美味しそうな香りが漂っていました。

当センターのプロジェクトの一つ、「みねMarketプロジェクト」は、モノを作る、売る、喜ぶを知るをコンセプトに、受刑者に企画や販売等の一連のマーケティングを体験させることにより、出所後の就労のスキルを身に付けさせること、また、地域住民の方々にも喜んでもらえるような取り組みに挑戦することで、働く喜びを実感し、社会復帰に向けた自信を回復させようといったプロジェクトです。

本年3月には、第1弾として、受刑者が考案した、地元産の食材も使用した「みねパン」を製造し、当センター売店で販売しました。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、住民の方々へのお知らせ等はできませんでしたが、当センターで開催された町づくり推進協議会に参加していただいた皆様にもお買い上げいただき、有り難いことに完売いたしました。売り場に設置したポスターや値札も、全て受刑者が考え作成したものです。

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、地域の皆様との交流等がまだ難しい状況ではありますが、今後も地域と共生し、地域住民が暮らしやすい安心安全な町づくりに貢献していきたいと思います。



着任の御挨拶

センター長 田中 秀 樹

当センターの運営につきましては、平素から関係自治体・機関、民間協力者の方々に加え、地域住民の皆様にご協力と御支援を賜っておりますことに心より厚く御礼申し上げます。



今回、初めて美祢市で勤務させていただきますが、日本の原風景のような美しい里山が広がる豊田前町には、これまでに経験したことのない住み心地の良さが感じられ、恵まれた環境で勤務や生活ができることを大変嬉しく思っております。

さて、新型コロナウイルス感染症については、本年度に入っても、依然、収まる気配がなく、「愛のまごころ矯正展」など、地域の皆様との交流を楽しみにしていた大きな行事等を見合わせざるを得なかったのが大変残念ですが、感染防止に配慮しながら、当センターの再犯防止の各種取組について広報するとともに、地域の創生に少しでもお役に立てるような活動を積極的に展開してまいりたいと考えております。

当センターにおきましては、日々、センター生に対し、職業訓練、各種指導、就労支援など、国と民間の職員が協力して様々な取組を行っているところ、今後も、美祢市をはじめとした関係自治体や民間協力者等と連携し、地域の皆様のお力添えをいただきながら、職員一丸となって施設運営に取り組んでまいり所存ですので、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

総務部長 波多野 芳 男



本年4月1日付けで岩国刑務所から当センター総務部長として着任しました。当センターの勤務は、平成23,24年度処遇第一首席として勤務して以来、2回目となります。その当時と比べると、地域との連携もさらに強化され、美祢ならではの様々な新しい取組も始められ、しっかりと地域に根差した運営がなされていると思えました。微力ではありますが、当センターの更なる発展のため、常にチャ

レンジ精神を忘れず取り組んでいきます。御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

矯正処遇部長 田中 諭

お久しぶりです。十数年ぶりに美祿の地に帰ってきました。美祿から転勤し、九州各地を回り、本年四月一日付けで長崎から来ました。美祿センターの立ち上げ時に悪戦苦闘しつつ汗をかき、ときには美祿市武道館で仲間と汗を流し、十数年ぶりの施設（当時からの職員も含めて）は更なる進化（成長）を遂げ、新たな女区二区の増設、様々な改善指導や職業訓練の実施等、充実したプログラムが組み立てられており、PFI施設国内第一号としての冠に恥じない施設となっていました。新型コロナウイルス感染により社会も当センターも緊急事態の真ただ中ではありますが、それでも新たなプロジェクトも立ち上がるなど、時代（美祿センター）の流れは止まることはありません。当センターの一員として微力ながら地域共生とセンター発展のため職務に取り組んでいきますので、皆様のご協力とご指導、よろしくお願いいたします。



更生支援企画官 浅野 起子



本年4月19日付けで着任しました更生支援企画官の浅野起子（あさのたつこ）です。

前任は広島刑務所で、出身は貴船原少女苑という女子少年院です。美祿センターは初めてですが、山口県での勤務は通算10年目で、オレンジ色のガードレールが何だか懐かしく、美しい自然の中で、小鳥のさえずりに目覚める生活がすっかり気に入りました。

PFI施設での勤務は2回目ですが、充実した処遇環境の中、地域の方々に温かく支えていただきながら、国職員、民間職員が、訓練生の立ち直りに向けて知恵を持ち寄り、色々な取り組みができることを非常に嬉しく思っています。

色々お世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

調査官 佐々木 真弓

本年4月1日付けで高松矯正管区から当センター調査官として着任いたしました佐々木と申します。

当センターでは、平成19年3月から平成21年1月までの約2年間及び平成25年1月から平成27年3月までの約2年間の2度にわたり勤務させていただいており、今回が3度目の勤務となります。

今回の勤務においては、様々な場面において、地域の皆様との関わりがございませう。

長年にわたり、当センターの円滑な運営に御支援や御協力をいただき、誠にありがとうございます。

現在の状況によりますと、皆様方との交流の機会を設けることが、当分の間は難しいことが予想されますが、少しでも皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



美祿市大理石使用の製品販売について

mine stone（ミネストーン）の展示を始めました。

美祿市の伝統的工芸品を広く知っていただきたいという山口県大理石・オニックス組合様の御意向を受け、この度、美祿社会復帰促進センターロビーで、大理石工芸品の展示を始めました。

美祿市は、良質の大理石が採取できることから、古くから大理石産業で栄えてきた歴史があります。また、美祿産大理石は、建築用に広く使用されてきており、国会議事堂の内装にも10種類もの美祿産大理石が用いられています。さらに、昭和30年代以降、その加工品はおみやげとしても大変な人気を得てきました。

現在も4人の職人の方々が、その伝統を受け継ぎ作品の製作に当たっていらっしゃいます。一つ一つ丁寧に手作りされた伝統の技をどうぞご覧いただければと思います。

なお、今後は一部商品について当センター売店でお買い上げいただけることとなります。（すべて手作りのため数に限りがあります）



※「MINE」には、読み方によって「美祿」「私のもの」「鉱山」という意味が含まれています。美祿の土地だからこそできた大理石の工芸品はmine stone（ミネストーン）と名付けられています。



国民に理解され、支えられる刑務所へ

編集・発行

美祿社会復帰促進センター

<http://www.mine-center.go.jp/>

お問い合わせ先

〒750-0693

山口県美祿市豊田前町麻生下10番地

TEL: 0837 (57) 5131

FAX: 0837 (57) 5161